

# 平成十七年酉年式年大祭と 記念事業資金御寄進のお願い

宮司・代表役員 黒田忠雄

御講中、崇敬者の皆様、素晴らしい新世紀の幕開け、平成十三年の新春を迎えられたことと心からお喜びを申し上げます。

御嶽山に積った二十年來の大雪も、徐々に大地に潤いを与えながらその姿を消して行き、当神社の春季祭も三月八日に滞りなく斎行され御嶽大神に本年の稔りの素晴らしきことをお祈り申し上げます。

さて、当神社では、古くから十二年に一度の酉年を式年大祭年として、三月下旬から五月下旬までの期間、毎日午前七時及び十一時に式年祭毎日祭を斎行し、本殿の御扉をお開き申し上げ、御講中、崇敬者の皆様に遍く大神の御恩頼を給わらう御奉仕いたし、合わせて式年大祭を寿ぎての記念の事業を執り行い、大神に報賽の誠を捧げて参りました。

四年後の平成十七年(乙酉)は、式年大祭年に当たりますので、これに向けての記念事業のあり方を昨年九月二十九日に開催した責任役員会で審議決定をいただき、境域内の整備を主目的とした事業を行うこととし、現下の社会情勢の下で財政の事情等を勘案しつつ、最小限度の工事計画をいたし、予定事業費を八千萬元といたしました。

この事業を行うにつきましては、神社資金では、賄いきれないため事業資金として御浄財の御寄進を御講中、崇敬者の皆様にお願ひすることといたし、その予定額を五千四百九十万円といたしました。その趣旨とするところ、事業の内容等については、社頭に掲げたお願書(抜粋)を以下に記しますので、御理解をいただき特段の御協力、御支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成十七年酉年式年大祭記念事業・銅板御寄進のお願い  
御参拝の皆様方には、日頃、当神社に深い敬神の念を賜っておりますことにつきまして、心から敬意を表するとともに感謝申し上げます。

当神社では、平成十七年に酉年式年大祭年の佳節を迎えますが、大祭記念事業として老朽化が進んでおります大鳥居の立替工事を始め、幣殿、拝殿、隨身門屋根葺替工事、境域内建造物の防火防雷工事を計画し、左記のとおり平成十三年から同十七年までの五ヶ年にわたり事業を進めることと致しました。

御嶽山頂のこの神域が、その歴史的、文化的価値をさらに高める中で、将来にわたって、御嶽大神の御神威が彌益々に昂揚されるよう専心努める所存であります。

この事業にあたりましては、神社管轄資金を基に、広く御講中、崇敬者に御浄財を仰いで、進めたく計画を立てさせていただきました。

つきましては、何卒この趣旨に御賛同を賜わり、特段の御支援助と御賛助を賜りますようお願いを申し上げます。

社頭での御寄進は、幣殿拝殿隨身門屋根葺替用銅板(一枚二千円・何枚でも結構です)に芳名を記入いただきお申し込みください。

お申し込みは、神符授与所窓口でお受けいたします。

なお、御講中につきましては、別途各御講中の主幹宮司を通じて御寄進のお願いを申し上げますので、御承知置き賜りたく存じます。

平成十二年十月吉日

御講中・崇敬者各位  
武蔵御嶽神社 宮司・代表役員 黒田忠雄  
武蔵御嶽神社 奉賛会会長 石川要三

| 事業名           | 概要            | 事業年度    |
|---------------|---------------|---------|
| 大鳥居建替工事       | 鳥居建替え         | 十三・十六年度 |
| 避雷針新設工事       | 銅帯小突針式避雷針二基   | 十三年度    |
| 幣殿・拝殿屋根銅板葺替工事 | 幣殿・拝殿屋根銅板全て葺替 | 十四・十五年度 |
| 宝物殿外部塗装工事     | 外部壁面塗装        | 十五年年度   |
| 隨身門屋根銅板葺替工事   | 屋根銅板全て葺替      | 十六年度    |
| 放水銃新設工事       | 放水銃六基新設       | 十七年度    |

## 武州みたけ

### 第二十八回武蔵御嶽神社奉納俳句入選作品

選者 金子千侍

#### 特選

一席 御嶽山道天に懸けたる蔓紅葉 逗子市小林 鮎一  
二席 薪神楽たましひ宿るまで舞ひて 八王子市川田 富美子  
三席 御嶽山世紀をまたぎ初景色 あきる野市田野倉 喜美好  
四席 老鷲や巣箱のような投句箱 福生市田光 絹代  
五席 賽銭の音が底まで山の秋 日高市金子 金星子

#### 秀逸 出句順

暑を収め一と日治めの鐘を打つ 多摩市内城道興  
御師の下駄借りて十歩に致盛草 青梅市原島康典  
笹鳴るや風の死角へこぼれけり 入間市上原春灯  
富士薊鋼のごとき没日かな 船橋市平栗瑞枝  
鷲の輪の静かに広がる初御空 入間市上原清邦  
里神楽月のあかりの餅拾ふ 江戸川区渡辺 京子  
燈のぼる欄宜の白足袋まぶしけり 青梅市中村 ゆき子  
初髪がよく笑ふ娘と道ずれに 入間市増岡 蛭雪  
御籤結ぶ万蕾なせし梅が枝に 入間市近藤 芙蓉  
仏法僧啼くや千古の神の山 青梅市服部 喜助

#### 佳作 出句順

満員のケーブル五分ほどの汗 横浜市中沢 光子  
大瑠璃の声聞き茶屋の昼寝かな 中野区木本 克巳  
むささびの跳ぶかもしれぬ月夜かな 杉並区深津 健司  
藪柑子安産杉の太さかな 飯能市森泉 双輪  
北風刃向い欄宜の足早に 青梅市久保 敏夫  
しんがりの友の見つけし冬桜 日高市小山 摩耶子  
ケーブルカー追いつく釣瓶落としかな 青梅市増田 正  
木の実拾ふ子供が一人もう一人 松戸市叶 惣一郎  
稜線や秒読む如く初日射す 日の出町島崎 百合子  
初雪の御嶽に祈る子の安産 世田谷区西前 千恵

選者吟 一山と一天にあり鷹の胸

### 奉納俳句選評

#### 特選 一席

(御嶽山道天に懸けたる蔓紅葉)  
御嶽の山道を導くように、両脇に神杉が続いております。この樹木に蔓が絡みつき、高く這い登っておりますが、秋には彩あざやかな蔓紅葉となります。この情景が、「天に懸けたる」の魅力的表現によって、天から下った錦の帯のように飾りたてられ、山道が美しく活写されたのであります。

二席(薪神楽たましひ宿るまで舞ひて)  
薪の炎に映えて神楽が舞われております。舞は刻々と、あやしいほどの迫力に満ち熟してまいりますと、演者に虚から現れた美の魂が宿ってくるのであります。そして、喰い入るように観る人の心にも、その魂が宿って両者合一の心境となります。

三席(御嶽山世紀をまたぎ初景色)  
二十世紀が御嶽のお山を跨いで、二十一世紀の悠揚として、雄雄しき山の初景色が現れたのです。軽快なりズム感と共に、新世紀到来を御嶽山において詠まれた事を意義深く感じました。百年に一度のチャンスしかない貴重な記念句です。

四席(老鷲や巣箱のような投句箱)  
御嶽山で昨年から始まった年間を通しての投句。その投句箱が、大きさ、形ともまるで鳥の巣箱のように置いてあります。ここまでは単純写生でありますが、「老鷲や」が入りますと、句は甦ったように生々と鮮度を増します。老鷲は夏鷲であります、特に素晴らしい啼き方をし、気品がありますのでこの名前がついたようです。  
老鷲と巣箱。老鷲と投句箱と夏の清清しい御嶽参道が詠まれました。

#### 五席(賽銭の音が底まで山の秋)

秋の高いお山の頂にある御嶽神社の森閑とした境内が、作者の素晴らしい感性によって見事に表現された作品です。お参りして投げ入れたお賽銭の音が底へ到達するまで、若しかしたらお山の芯の方まで、筋をひいたように鮮明に聞こえたのでした。一瞬の驚きが、お山の秋の静寂と透明感を表出したのでした。

#### 選後評

御嶽神社を詠まれた一年間の作品一〇三一句を拝読させていただきました。どの作品も四季折々が生々しく写実されて、迫真感、臨場感溢れる秀句が輝いておりました。従って、特選、秀逸、佳作の選出には、何度も繰り返し読み、反芻して、別記のごときに決めさせていただきました。お陰様で、私自身、御嶽神社の四季をたっぷり味わい、多くの学びをさせていただきましたこと、心から感謝申し上げます。

### 第二十九回

#### 奉納俳句募集要項

- 一、作品は未発表に限る
- 一、受け付けは指定用紙にて投句箱へとする
- (郵送等直接の受付は致しません)
- 一、締切りは平成十四年一月二十日
- 一、発表は平成十四年三月中旬